



和の色

自然から生まれた、日本ならではの色



この教材の使い方

1

見て・ふれて・感じる

写真や実物、動画でも確かめてみましょう。身近な行事や食べ物の中にも、日本文化はたくさんあります。

2

「なぜ？」を考える

行事やしきたりには、それぞれ意味や願いがこめられています。由来を知ると、ぐっと面白くなります。

3

「やってみよう」で体験する

答えは30ページにあります。家族や地域の人に話を聞くのもおすすめです。地域によるちがいも楽しみましょう。



Ken (ケン)

日本の中学生。地元のお祭りが大好き。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。日本文化を勉強中。

もくじ

和の色の世界	3～4
染めの色	5～8
身分と季節の色	9～11
色と暮らし	12～15
写真と体験	16～17
おさらい	18～23
まとめ	24～30

和の色ってなに？

日本には、自然の姿からつけられた色の名前がたくさんあります。

和の色とは、日本で古くから使われてきた、独自の名前をもつ色のことです。花や植物、風景など、自然の姿から名前がつけられたものがたくさんあります。同じ「青」でも、藍色・浅葱色など、こまかく分けた名前があるのが特徴です。



和の色の名前の例

藍色

桜色

山吹色

浅葱色

萌黄色

どの名前にも、自然や暮らしと結びついた物語があります。

ポイント

- 和の色には、400以上ともいわれる、たくさん名前があるとされています。
- 自然の色をよく観察し、こまかく名前をつけてきたことが、和の色の豊かさにつながっています。
- この教材では、代表的な和の色を、由来とともに見ていきます。

やってみよう

- 身のまわりで、名前をつけたいような色を1つ探してみよう。

ワンポイント 同じ色でも、光の当たり方や季節によって少しちがって見えることがあります。

書いて覚えよう

色の名前の由来・植物からの色

和の色の名前は、どこから生まれたのでしょうか。

ポイント

- 和の色の名前は、花や実、木の名前からつけられているものが多くあります。
- 染料としても使われた植物が多く、色の名前が染めものの歴史と重なっています。
- 動物や鉱物、季節の風景から名づけられた色もあります。

花からの色

桜色・藤色など、花の姿から名づけられた色

草木からの色

藍色・萌黄色など、葉や茎から生まれた色

実や土からの色

柿色・土色など、身近な自然から生まれた色

やってみよう

- 好きな植物を1つ選び、その植物にちなんだ色名がないか考えてみよう。

書いて覚えよう

植物の染料から生まれた、深みのある色を知ろう。

あいいろ／indigo blue

藍という植物から染められる、深い青色

あかねいろ／madder red

茜という植物の根から染められる、赤みの色

- 藍色は、藍という植物の葉を発酵させてつくる染料で染められてきました。
- 茜色は、茜の根を使って染められ、夕焼けの空を表すことばとしても使われます。
- どちらも、古くから衣服や布の染めに使われてきた色です。

1. 夕方の空を見て、茜色に近いと感じたら書き留めておこう。

紅色・萌黃色

花からとれる紅色と、若葉のような萌黄色を知ろう。

紅色

べにいろ / crimson red

紅花という植物から染められる、あざやかな赤

萌黄色

もえぎいろ／yellowish green

春の若葉のような、明るい黄緑色

ポイント

- 紅色は、紅花の花びらから少しずつ色素を取り出して染められる、貴重な色でした。
- 萌黄色の「萌える」は、草木の芽が出てくる様子を表すことばです。

やってみよう

1. 春に見かける萌黄色に近いものを1つ探してみよう。

書いて覚えよう

山吹色・桜色

花の名前がついた、あたたかみのある色を知ろう。

山吹色

やまぶきいろ／golden yellow

山吹という花のような、あざやかな黄色

桜色

さくらいろ／pale pink

桜の花びらのような、やわらかいピンク色



Ken

桜色って、桜の花びらそのものというより、少し白っぽいよね。

Emma

本当だ。花びら1枚だと、意外とうすい色に見えるんだね。



ポイント

- 山吹色は、昔から金貨の色にたとえられることもある、明るい黄色です。
- 桜色は、桜の花全体というより、花びら1枚に近い、やわらかな色といわれています。

やってみよう

1. 山吹色か桜色、どちらか好きなほうを選び、理由を書こう。 _____

書いて覚えよう

浅葱色

ねぎの葉のような、さわやかな青緑色を知ろう。

浅葱色は、ねぎの葉のような、うすい青緑色です。「葱（ねぎ）」の字が入っているのは、この由来からです。

江戸時代の終わりごろに活動した新選組の羽織の色として知られ、当時の人々に強い印象を残したといわれています。



ポイント

- 浅葱色は、青と緑のあいだのような、さわやかな色です。
- 歴史上の人物や集団の衣装の色として語られることもあります。

やってみよう

1. 浅葱色に近い色を、身のまわりで1つ探してみよう。

書いて覚えよう

紫色は、昔、特別な色として扱われていました。

紫色は、昔、特別な色として扱われていました。

紫はめずらしい貝や植物から少しずつしか取れず、貴重な色だったことも、高い位の色とされた理由の1つと考えられています。



- 紫色は、身分の高さを表す特別な色として、長く大切にされてきました。
- 今でも、紫は高貴で落ち着いた色として好まれています。

1. 紫色から、どんな印象を受けるか書いてみよう。

江戸時代、茶色と鼠色にも、たくさんの種類が生まれました。

四十八茶百鼠

しじゅうはっचाひゃくねずみ

江戸時代に生まれた、数え切れないほど多くの茶色と鼠色（灰色）の呼び名

ポイント

- 江戸時代には、派手な色の着物を制限するきまりがあったといわれています。
- そのため、茶色や鼠色の中で、わずかなちがいを楽しむ工夫が広まりました。
- 「四十八」「百」は正確な数ではなく、「とても多い」という意味で使われています。

やってみよう

1. 身のまわりの茶色や灰色を2つ見つけて、ちがいを比べてみよう。

書いて覚えよう

菊がさね

- かさねの色目には、100種類以上あるといわれています。
- 色の組み合わせだけで、今の季節を表現する、細やかな美意識が感じられます。

1. 今の季節に合いそうな色の組み合わせを、2色考えてみよう。

着物と色

着物の色にも、和の色が多く使われています。

ポイント

- 着物には、季節や年齢、場面に合わせた色が選ばれてきました。
- 若い人には明るい色、年配の人には落ち着いた色が好まれる傾向があるとわれています。
- 帯や小物の色を組み合わせ、全体の印象を作ることも大切にされています。

やってみよう

1. 自分なら着物にどんな和の色を選びたいか書いてみよう。

書いて覚えよう

和菓子と色

和菓子にも、季節を表す和の色が使われています。

春の和菓子

桜色を使った、桜もちなどの菓子

夏の和菓子

浅葱色や水色を使った、涼しげな菓子

秋の和菓子

山吹色や紅色を使った、実りを表す菓子

ポイント

- 和菓子の色は、季節の花や風景をイメージして作られることが多いです。
- 色だけでなく、名前にも季節のことが使われています。

やってみよう

1. 食べたことのある和菓子で、印象に残っている色を1つ書こう。

書いて覚えよう

色の組み合わせ・和の色を探そう

和の色は、組み合わせ方でも印象が変わります。

ポイント

- 似た色同士を組み合わせると、落ち着いた上品な印象になります。
- 反対の性質をもつ色を組み合わせると、はなやかな印象になります。
- 身のまわりには、まだ名前を知らない和の色がたくさんかくれています。

やってみよう

1. 家や学校の中で、和の色に近い色を2つ見つけよう。
2. その2色を組み合わせて、どんな印象になるか書こう。

書いて覚えよう

- 色の名前とその由来を知ると、色を選ぶ楽しさがぐっと広がります。
- 好きな和の色を1つ持っておくと、日々の暮らしの中で見つけやすくなります。

- 1.ここまで学んだ和の色から、いちばん好きな色を1つ選ぼう。
- 2.選んだ理由を書いてみよう。

ワンポイント 次のページからは、実際に和の色を見たり、探したりしながら理解を深めていきましょう。

写真や実物を見てみよう

実物を見ると、色の微妙なちがいがよくわかります。

ポイント

- 着物や和菓子の写真集で、和の色の名前と実際の色を見比べてみましょう。
- 美術館や資料館で、染めものの展示を見られることもあります。
- 色見本の本やインターネットで、和の色の一覧を調べるのもおすすめです。

やってみよう

1. 写真か実物で、和の色を1つ見つけて、その名前を調べて書こう。

書いて覚えよう

体験してみよう

実際に色を作ったり、探したりしてみよう。

やってみよう

絵の具で和の色を作る

色見本を作る

家の中の和の色を探す

和菓子の色をスケッチする

絵の具を混ぜて、和の色に近づける実験も楽しめます。

ポイント

- 絵の具を混ぜるときは、少しずつ色を足して、ちがいを確かめましょう。
- うまく同じ色にならなくても、近づけようとする過程が学びになります。

やってみよう

- この中から1つ選んで、実際にやってみよう。
- やってみて気づいたことを書こう。

書いて覚えよう

地域によるちがい

染めの技法や色の好みは、地域によってちがいます。

ポイント

- 地域ごとに、昔から伝わる染めや織りの技法があり、得意な色合いもちがいます。
- 気候や、その土地でとれる植物によって、使われてきた染料もちがいます。
- 「この色が正しい」と決めつけず、地域ごとの色の文化を尊重しましょう。

やってみよう

1. 自分の住む地域に伝わる染めものや織物がないか、調べてみよう。

書いて覚えよう

昔と今をくらべよう

和の色の使われ方も、時代とともに変わってきました。

昔

植物染料の時代

植物や鉱物から染める

手間と時間をかけて色を作った

身分による色の決まり

使える色に制限があった

今

自由に選べる時代

化学染料も使われる

安定した色を大量に作れる

だれでも好きな色を選べる

身分による色の制限はない

ポイント

- 手間のかかる植物染めは、今も伝統工芸として大切に受け継がれています。

やってみよう

1. 今の時代に和の色を楽しむとしたら、どんな場面で使いたいか書こう。

書いて覚えよう

よくある疑問

和の色について、よくある疑問を確認しましょう。

Q&A

1. Q. 和の色は、今でも使われているの？→ A. 着物や和菓子、和紙などに、今もたくさん使われています。
2. Q. 和の色の名前は、だれが決めたの？→ A. 特定の1人ではなく、長い年月の中で、人々の暮らしから自然に生まれてきたといわれています。
3. Q. 洋色との境目ははっきりしているの？→ A. はっきりとは分かれておらず、似た色でも呼び方がちがうことがあります。

ポイント

- 色の名前や由来には諸説あるものも多いので、興味をもったら調べてみましょう。

書いて覚えよう

マナーと注意点

和の色を選ぶときに、気をつけたいことがあります。

ポイント

- お祝いのお祝いとお悔やみの場では、ふさわしい色がちがうことがあります。
- 着物や小物の色を選ぶときは、季節や場面に合っているかを考えましょう。
- 染めものの実物にふれるときは、色落ちすることがあるので注意しましょう。

ワンポイント お悔やみの場では、鮮やかな色を避け、黒や落ち着いた色を選ぶのが習わしです。

やってみよう

1. 場面に合わせて色を選ぶとよい例を1つ書こう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきたことばを確認しよう。

植物の色

☐ 藍色

藍から染められる深い青

☐ 茜色

茜の根から染められる赤

☐ 紅色

紅花から染められる赤

花と季節の色

☐ 山吹色

山吹の花のような黄色

☐ 桜色

桜の花びらのようなピンク

☐ 萌黄色

若葉のような黄緑色

身分と時代の色

☐ 紫

冠位十二階で最高位を表した色

☐ 浅葱色

ねぎの葉のような青緑色

☐ 四十八茶百鼠

江戸時代の茶色と鼠色の呼び名

色の文化

☐ かさねの色目

着物を重ねる色の組み合わせ

☐ 和菓子の色

季節を表す菓子の色

☐ 色の組み合わせ

色どうしを重ねて印象を作ること

ワンポイント 覚えたことばに✓をつけよう。名前を知ると、色を見る目がより豊かになります。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

- | | | |
|--------|---|---------------------|
| 藍色 | ● | ● ア. 冠位十二階で最高位を表した色 |
| 紫 | ● | ● イ. 山吹の花のような黄色 |
| 山吹色 | ● | ● ウ. ねぎの葉のような青緑色 |
| 浅葱色 | ● | ● エ. 着物を重ねる色の組み合わせ |
| かさねの色目 | ● | ● オ. 藍から染められる深い青 |

2. 言葉を3つ書こう

1. 藍という植物から染められる青は？ _____
2. 冠位十二階で最高位を表した色は？ _____
3. 桜の花びらのようなピンクは？ _____

3. 正しいほうに○をつけよう

1. 冠位十二階で最高位だった色 → （ 紫 ／ 山吹色 ）
2. 江戸時代に生まれた茶色と鼠色のたくさんの呼び名 → （ 四十八茶百鼠 ／ かさねの色目 ）

書いて覚えよう

書いて覚えよう

家族や友だちに話してみよう

学んだ和の色を、自分のことばで伝えてみよう。

伝えたい色

由来や意味

自分が感じたこと

この色を使ってみたい場面

Emma の例

伝えたい色 桜色／由来や意味 桜の花びらのようなやわらかいピンク／自分が感じたこと 花全体より薄い色だと知って驚いた／使ってみみたい場面 春に着る服の色

ポイント

- 実際の色見本や写真を見せながら話すと、より伝わりやすくなります。

書いて覚えよう

英語で紹介してみよう

和の色を、英語でも紹介してみよう。

和の色

traditional Japanese colors

自然の姿から名づけられた、日本独自の色

藍色

indigo blue

藍という植物から染められる深い青

桜色

cherry blossom pink

桜の花びらのようなやわらかいピンク

山吹色

golden yellow

山吹の花のようなあざやかな黄色

Emma

Why does Japan have so many names for blue and green?

どうして日本には青や緑の名前がこんなに多いの？



Ken

People paid close attention to nature and gave each shade its own name.

自然をよく観察して、色の一つ一つに名前をつけてきたからなんだ。

やってみよう

1. 紹介したい和の色を1つ選び、短い英語で説明してみよう。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ

和の色の世界は、まだまだ広がっています。

もっと知りたい人へ

本で

和の色の名前と由来を調べる

美術館で

染めものや着物の展示を見る

実際に

絵の具で和の色を作ってみる

次のステップ

和の文様

色とともに使われる模様を知る

着物の着方

色が生きる着物の文化を知る

和菓子

色で季節を表す和菓子の文化を知る

ポイント

- この教材の次は「和の文様」。色とともに日本の美をつくる、模様の世界を学んでいきます。

書いて覚えよう

学んだことをまとめよう

この教材で学んだことを、自分の言葉でまとめよう。

まとめ 自分の言葉で書こう

1. 和の色とは、どんなものですか。 _____
2. いちばん印象に残った色は？ _____
3. これから使ってみたい和の色は？ _____

和の色ミッションカード

MISSION 1

好きな和の色を1つ見つける

MISSION 2

絵の具で和の色を作ってみる

MISSION 3

和菓子や着物の色を観察する

MISSION 4

家族に和の色について1つ紹介する

できたミッションに✓をつけよう： ☐1 ☐2 ☐3 ☐4

書いて覚えよう

和の色チャレンジ

身のまわりには、和の色がたくさんかくれています。

見つけよう

身近にある**和の色**を1つ探す

作ろう

絵の具で**和の色**を1つ作ってみる

伝えよう

好きな和の色を**友だちや家族に紹介**する

こたえ

L28 藍色→オ 紫→ア 山吹色→イ 浅葱色→ウ かさねの色目→エ
2. 藍色 / 紫 / 桜色 3. 紫 / 四十八茶百鼠

L33 (例) 和の色とは、自然の姿から名づけられた、日本ならではの色のこと。

書いて覚えよう

和の色 (Season 7 | No.69)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。